

明日 への 話題

GPIFのステュワードシップ 活動の意義



年金積立金管理運用独立行政法人
理事長

みやぞの まさたか
宮園 雅敬

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、世界の経済・社会に大きな影を落としている。このような状況において、社会や組織の持続可能性（サステナビリティ）に対する関心が一段と高まっているように思う。GPIFでは、年金積立金の持続可能性を高める上で、投資においてESG（環境・社会・ガバナンス）を考慮することが重要であるとの考えから、ESG指数に連動した株式投資など様々な取組みを進めてきた。ここでは、GPIFのESGを考慮したステュワードシップ活動の意義について、改めて説明したい。

ステュワードシップ活動は、機関投資家が投資先企業とその事業環境等に関する深い理解や、運用戦略に応じたサステナビリティの考慮に基づく建設的な対話（エンゲージメント）などを通じて、企業価値の向上や持続的成長を促すことより、中長期的な投資収益の拡大を図ることを目的とした活動である。

GPIFは190兆円を超える運用資産を資本市場全体に幅広く分散投資するとともに、100年を視野に入れた年金財政の一端を担う超長期投資家である。このような特性を持つGPIFにとって、資本市場や社会が持続可能であることは、年金積立金が持続可能であり、長期にわたって投資収益を獲得するための必要条件であると言える。

GPIFは法令の制約により、一部の資産を除き、外部の運用会社に運用を委託している。このため、投資先との対話や議決権行使を担うのは運用受託機関であり、GPIFは運用受託機関が重大と考えるESG課題について、投資先企業との積極的な対話を行うようお願いしている。GPIFは運用受託機関が重大と考えるESG課題について毎年アンケート調査を実施しており、2020年の回答結果では、コロナ禍を背景に、従業員の健康と安全や、サプライチェーン・マネジメントなど、S（社会）課題の重要性に対する認識が一段と高まっていることや、気候変動問題に対する運用受託機関の高い関心が継続していることがうかがわれる。

社会経済システムの大きな転換が進む中、GPIFが年金事業の安定に貢献し、ひいては国民生活の安定に貢献するという使命を果たすため、ステュワードシップ活動の推進において、運用受託機関の皆様との連携を一層深めていくことが重要であると考えている。今後とも皆様のご理解、ご協力を賜れば幸いである。